

明日は何の日?

9 月 1 日は、関東大震災の日(1923 年)、宝塚歌劇団レビュー記念日(1927 年初演)です。

閑話休題一恐怖の地下鉄刃物男①

ヨネやんが東京に出たのが 1995 年 5 月、阪神淡路大震災の年です。電車通勤・通学初体験の頃のお話。もちろん実話です。

地下鉄に乗り始めた当初、ヨネやんが乗り込むと同時に乗客の視線が一斉にこっちに向く気がして、不審でした。「自意識過剰なんかなあ。大都会・東京には似つかわしくない格好してんのかなあ。これでもだいたいパリッとしてんねんけど」。それまでは、T シャツと破れた G パンにサンダル履きで新幹線にも乗っていたのですから。

ある時、乗客の視線の謎に気づきました。

「ああそうか。短髪で・リュックを背負い・大きな紙袋を持って、おまけに今日は柄の長い傘まで持ってるやん」

お気づきでしょうか？ ヨネやんが東京に出る 2 か月前の早朝、地下鉄サリン事件があったのです。そら、皆さん怖いわなあ。すぐに紙袋とリュックを止めました。

そんなある日、ヨネやんが吊革を持ってドア付近に立っていると、若い兄ちゃんが乗り込んで来て目の前に立ちました。丸刈りで目つきが鋭く、大きな紙袋を持ち、傘まで持っています。

「ちょっと待ってえ。何か典型的に見える怪しさやん。でも、サリンよりもその筋の危なさちゃう？」。ちらちらと兄ちゃんを見ながら、警戒を怠らないヨネやん。

2 駅ほど過ぎた頃、目の前の兄ちゃんは床に置いた紙袋をおもむろに持ち上げ、しかも紙袋の中をじっと見つめています。

「ちょっと、ちょっと……」。この時点でヨ

ネやんの腰はかなり引けています。

やがて兄ちゃんは、紙袋の中から細長く平べったい木の箱を取り出しました。

「ちょっと、それ何?」。もうヨネやんの目は遠慮なくその箱を凝視したままです。

兄ちゃんは、箱を左手に持ち、じっくりと眺めた後、右手で箱を開けました。ヨネやんは既に心の声さえ出てきません。兄ちゃんは、そんなヨネやんをおちょくるようにゆったりとした動作で、箱の蓋をゆっくりと紙袋の中に戻します。

(箱の中身は、何?) ヨネやんの位置からは、中身が見えないのです。兄ちゃんは、ヨネやんの心を読んだかのように、ゆっくりとした動作で箱の中身を取り出します。右手で……。

彼の右手に握られていた物を見た時、文字通り心臓が止まるかと思いました。自分の血の気が引いていく音が聞こえるような気がしたのです。兄ちゃんが握っていた物は、何だったでしょう?

包丁です! 刃渡り 30 センチ以上はありそうな立派な包丁!

「逃げなアカン!」

頭ではそう思っているも、体が言うことを聞きません。しかも、慌てて逃げたり大声を出したら、この兄ちゃんが逆上するかもしれない。「どうしたらええねん?」

助けを求めようと周りをそお〜っと見渡してみると、誰一人この惨劇を見ていないのです! みんな寝ているか、文庫本や新聞を読んでいるか、他人に無関心か。

アカン! 絶体絶命や! どないしよ〜! 果してヨネやんの運命や如何に?(続く)